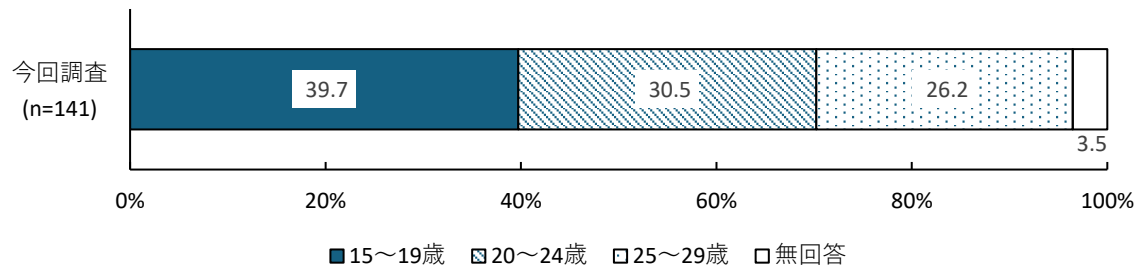


2-2. 子ども・若者意識調査分析結果(15～29歳の若者)

(1)回答者の属性について

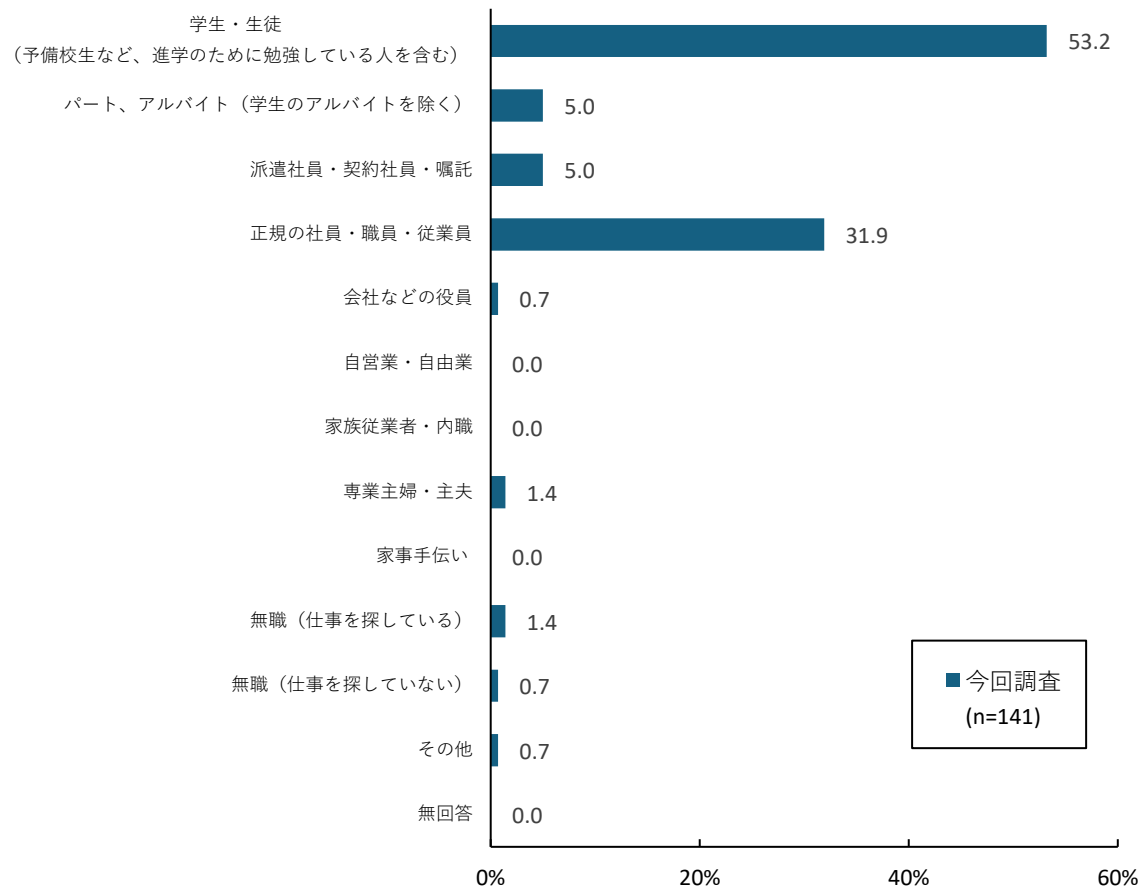
① 15 歳～28 歳まで、幅広い年齢から回答があった。【問2】

図表 回答者の年齢(15～29 歳の若者)【単数回答】



② 回答者の職業は、「学生・生徒」が 53.2%と最も多く、「正規の社員・職員・従業員」が 31.9%と2番目に多かった。【問11】

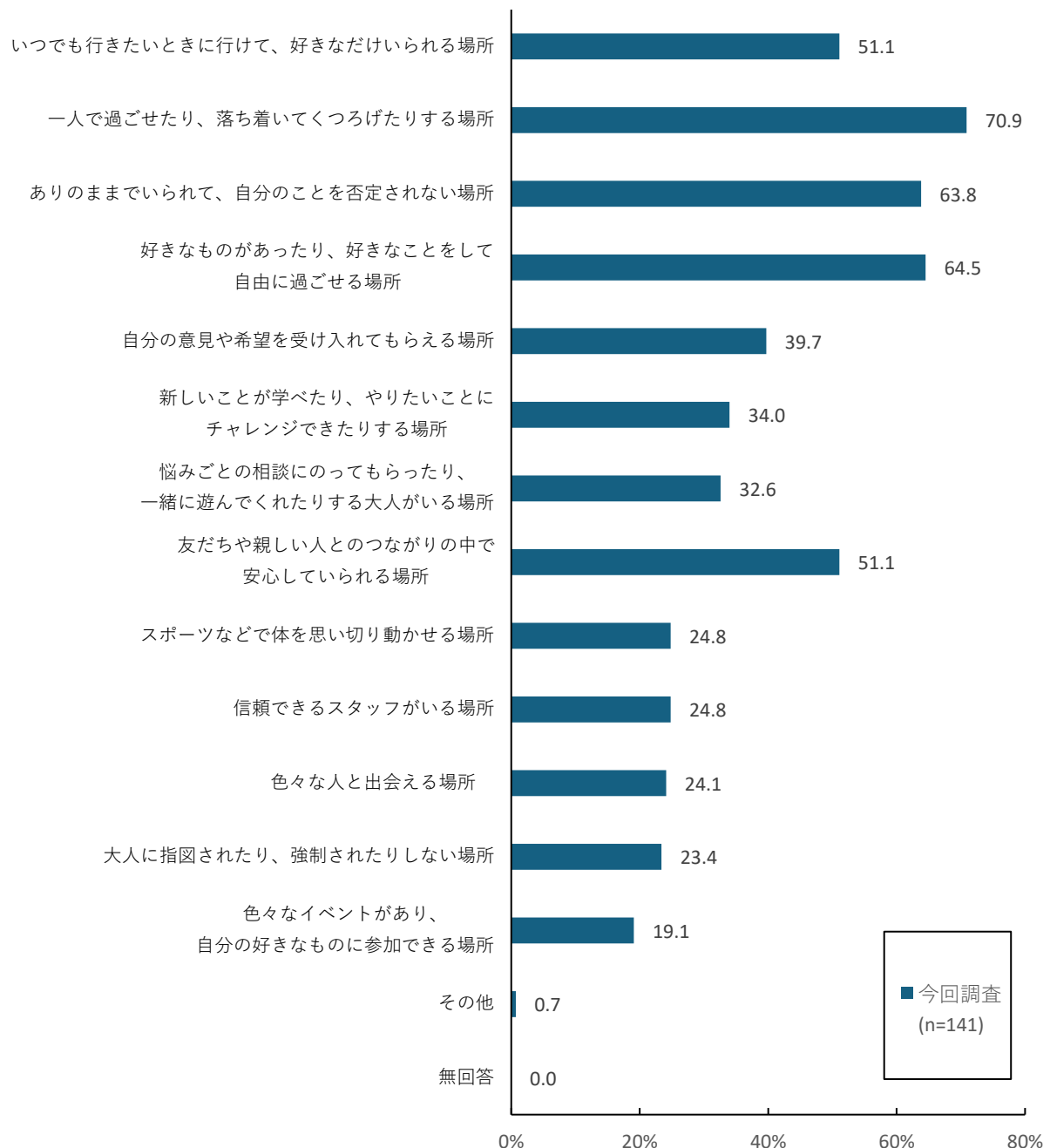
図表 回答者の職業(15～29 歳の若者)【単数回答】



(2)居場所について

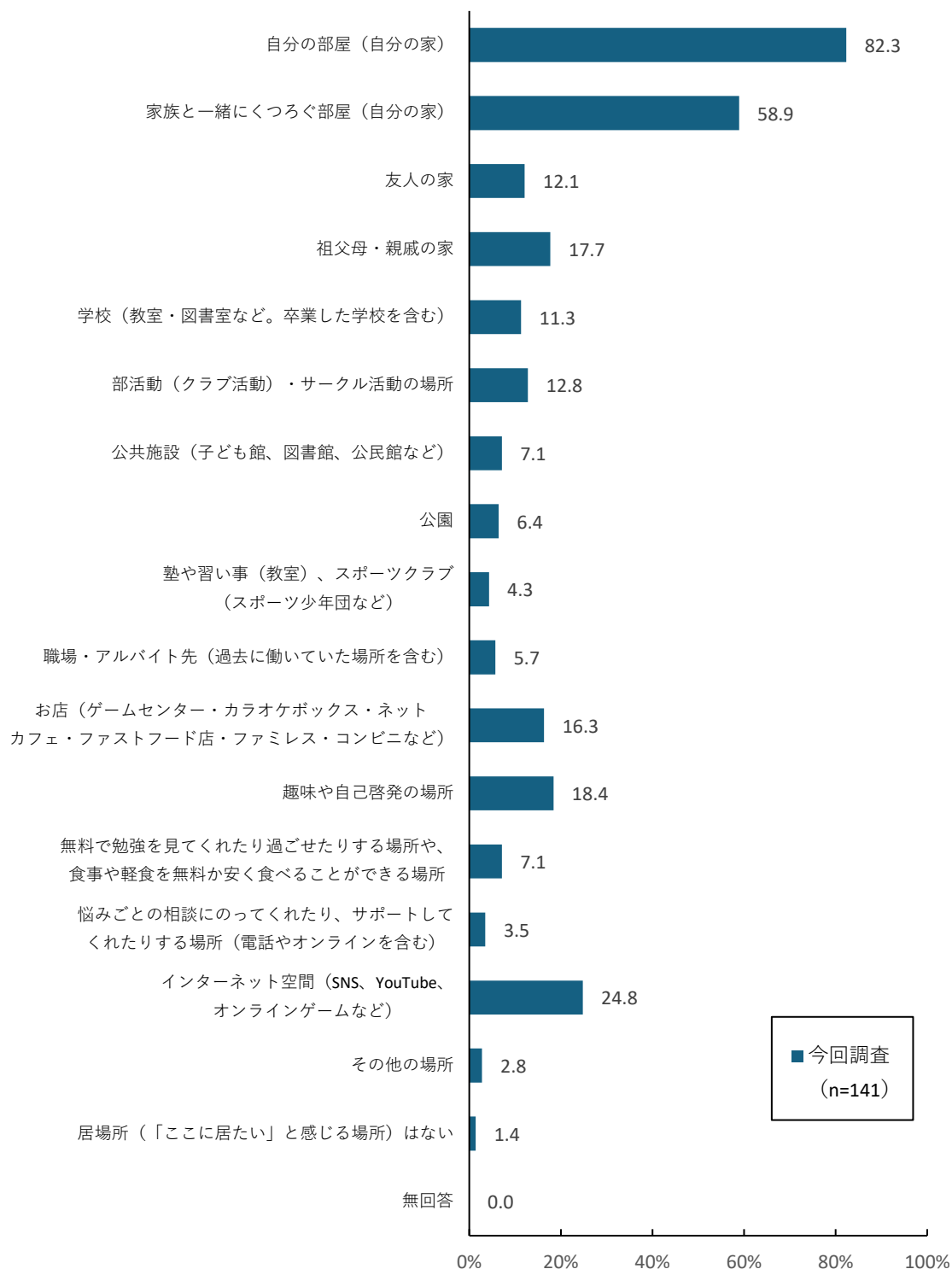
- ① 子ども・若者にとっての居場所(ここにいたいと感じる場所)はどんなところかについては、「一人で過ごせたり、落ち着いてくつろげたりする場所」が 70.9%と最も多く、次いで「好きなものがあったり、好きなことをして自由に過ごせる場所」が 64.5%、「ありのままでいられて、自分のことを否定されない場所」が 63.8%となった。【問12】

図表 居場所のイメージ(15～29 歳の若者)【複数回答】



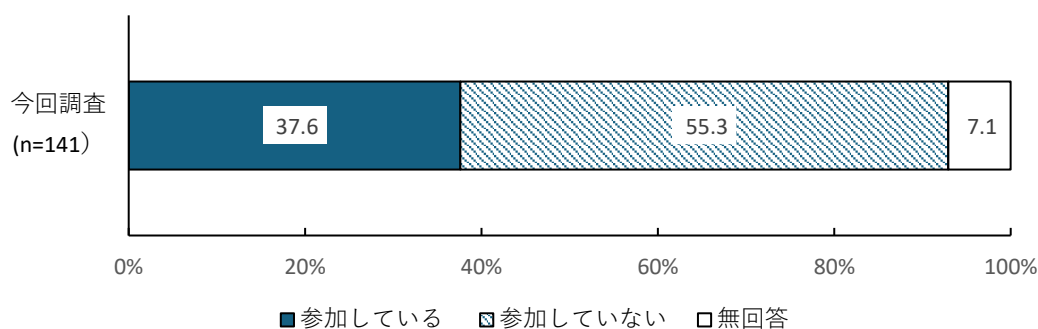
- ② 回答者にとっての居場所(ここにいたいと感じる場所)については、「自分の部屋(自分の家)」が 82.3%と最も多く、次いで「家族と一緒にくつろぐ部屋(自分の家)」が 58.9%、「インターネット空間(SNS、YouTube、オンラインゲームなど)」が 24.8%と続いている。【問13】

図表 回答者にとっての居場所(15～29 歳の若者)【複数回答】



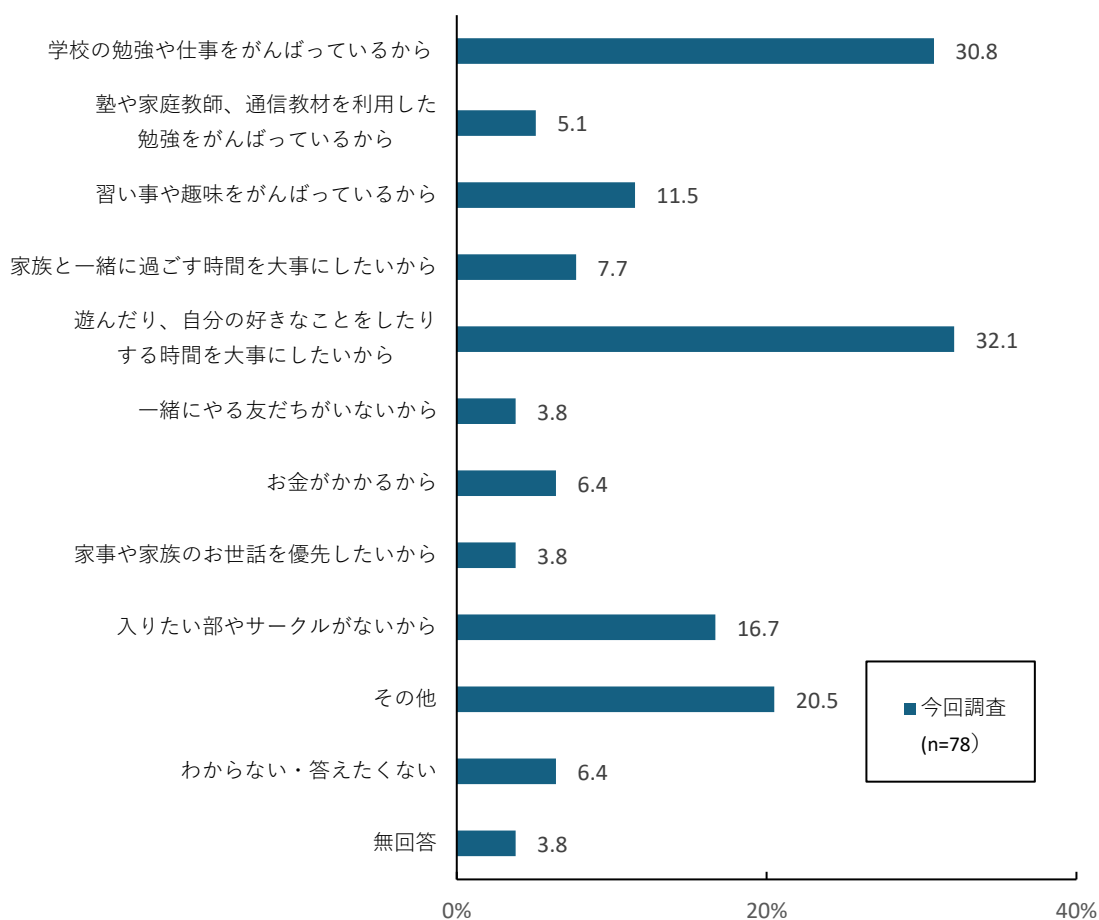
③ 部活動やクラブ活動に参加している人の割合は 37.6%だった。【問8】

図表 部活動やクラブ活動への参加状況(15～29 歳)【単数回答】



④ 部活動やクラブ活動に参加しない理由については、「遊んだり、自分の好きなことをしたりする時間を大事にしたいから」が 32.1%と最も多く、次いで「学校の勉強や仕事をがんばっているから」が 30.8%となっている。【問9】

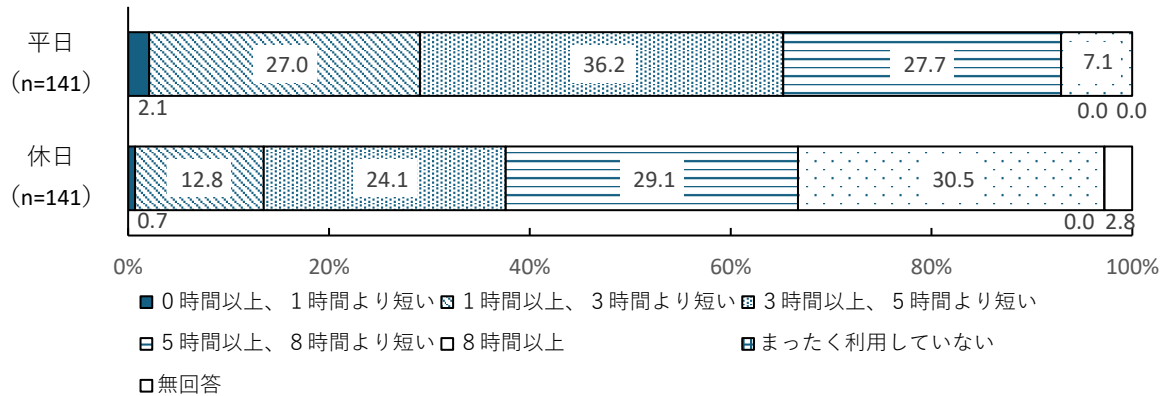
図表 部活動やクラブ活動に参加しない理由(15～29 歳の若者)【複数回答】



(3)インターネットについて

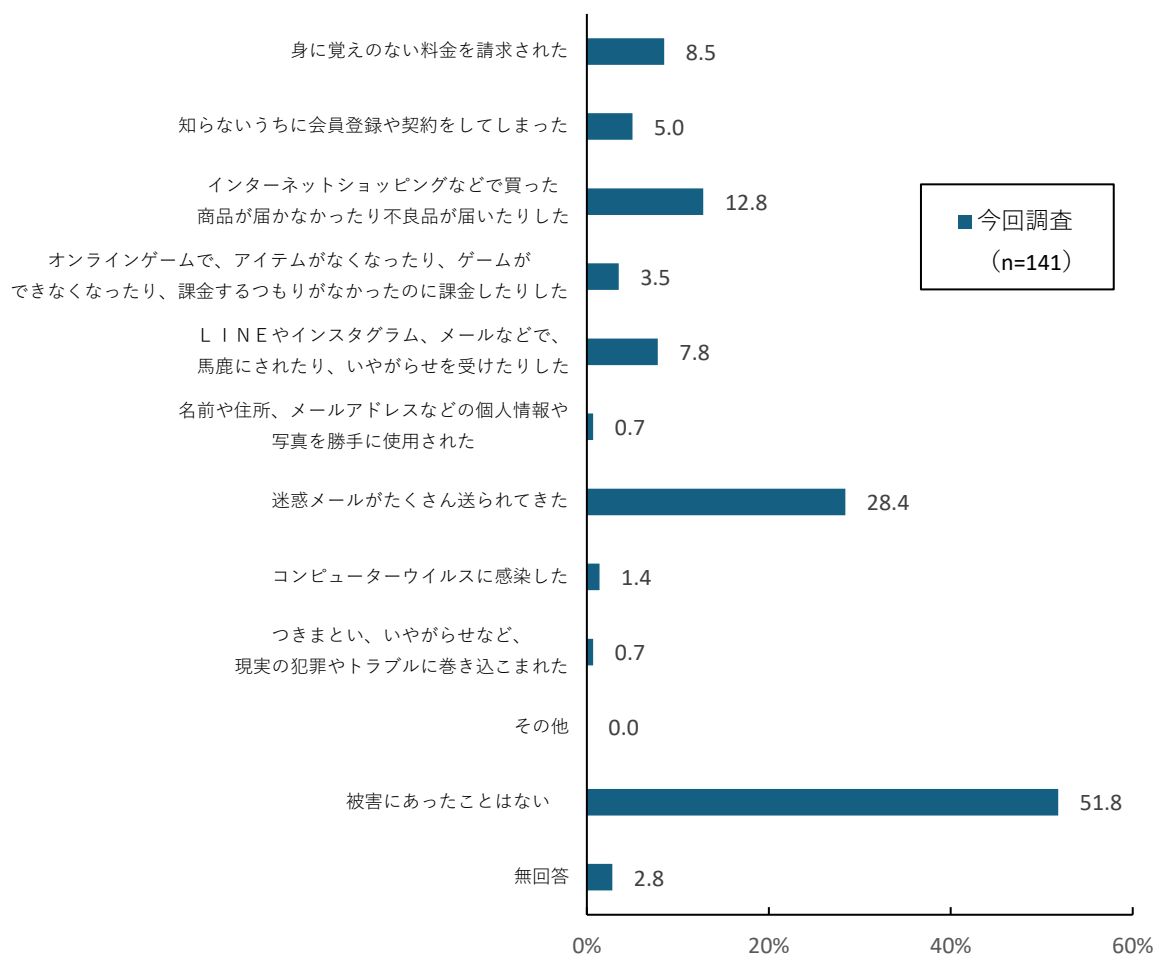
- ① インターネットの利用時間は、「平日」より「休日」の方が長時間となる傾向がある。1日5時間以上利用している人の割合は、「平日」が 34.8%「休日」が 59.6%となっている。【問14】

図表 インターネットの利用時間(15～29 歳の若者)【単数回答】



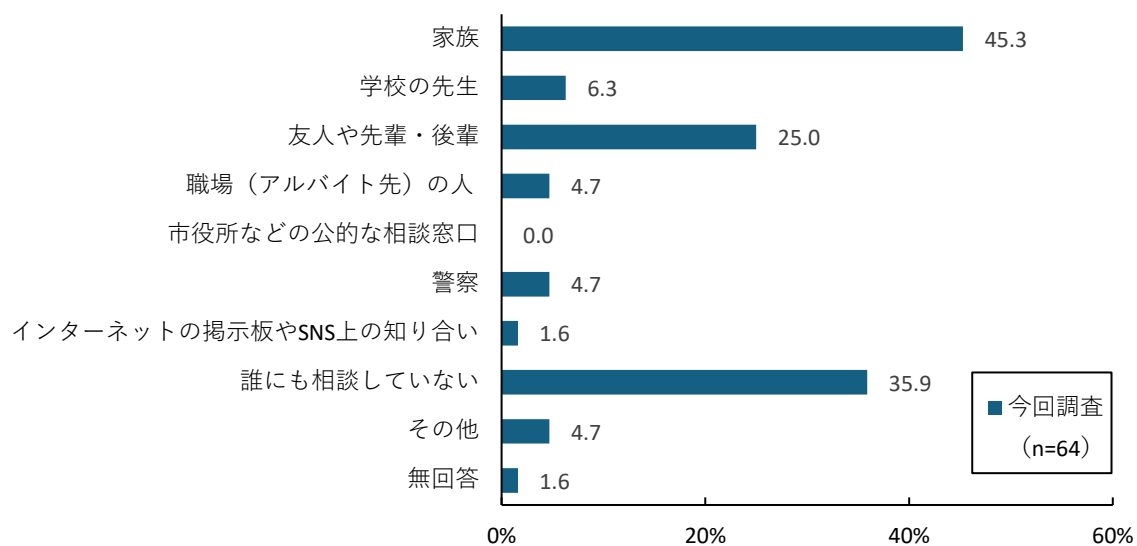
- ② インターネット上のトラブルにあったことのある割合は、45.4%となっている。このうち、トラブルの中では「迷惑メールがたくさん送られてきた」が 28.4%と最も多く、次いで「インターネットショッピングなどで買った商品が届かなかったり不良品が届いたりした」が 12.8%、「身に覚えのない料金を請求された」が 8.5%となっている。
- 【問15】

図表 インターネットの利用におけるトラブル(15～29 歳の若者)【複数回答】



- ③ インターネット上のトラブルにあった時の相談相手については、「家族」が 45.3%、「友人や先輩・後輩」が 25.0%と回答が多かったが、一方で「誰にも相談していない」が 35.9%となっている。【問16】

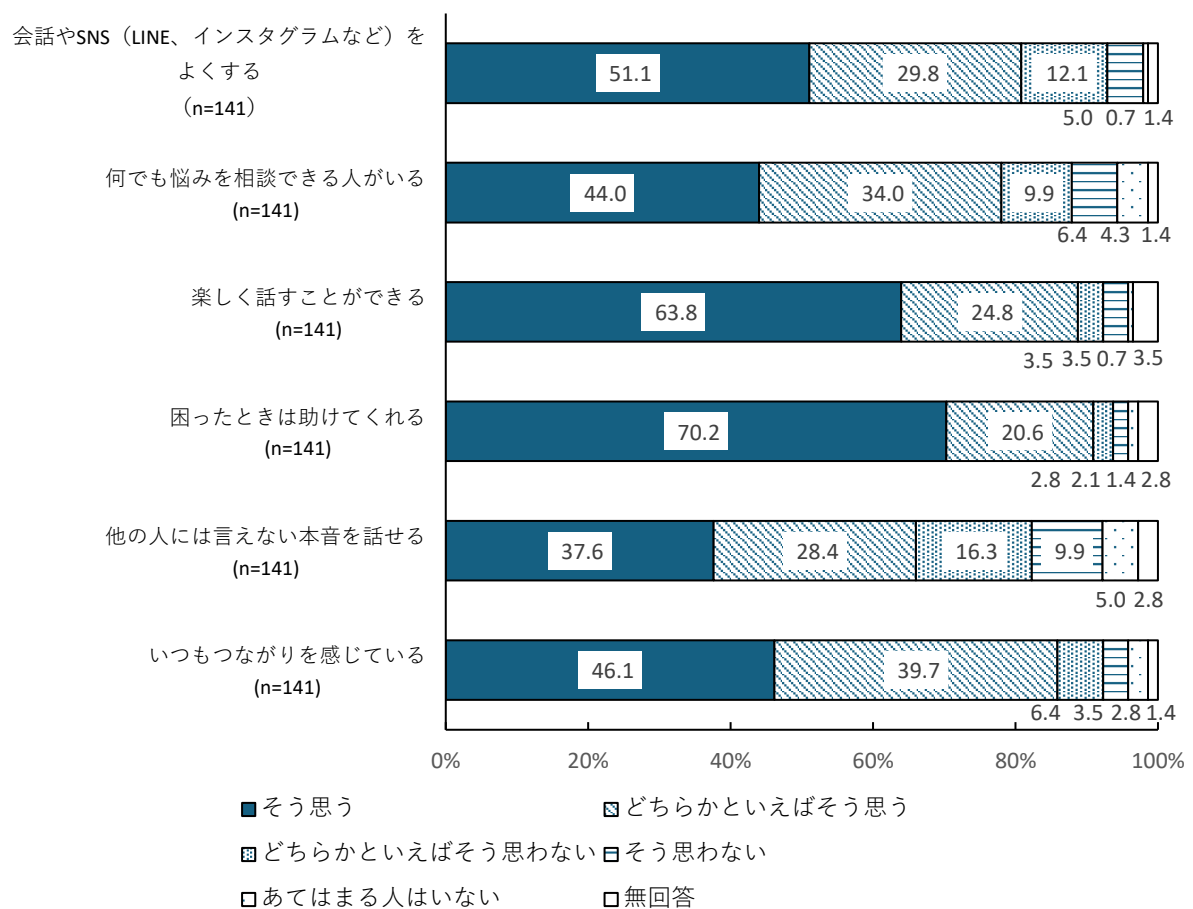
図表 インターネットの利用におけるトラブルの際の相談相手
(15～29 歳の若者)【複数回答】



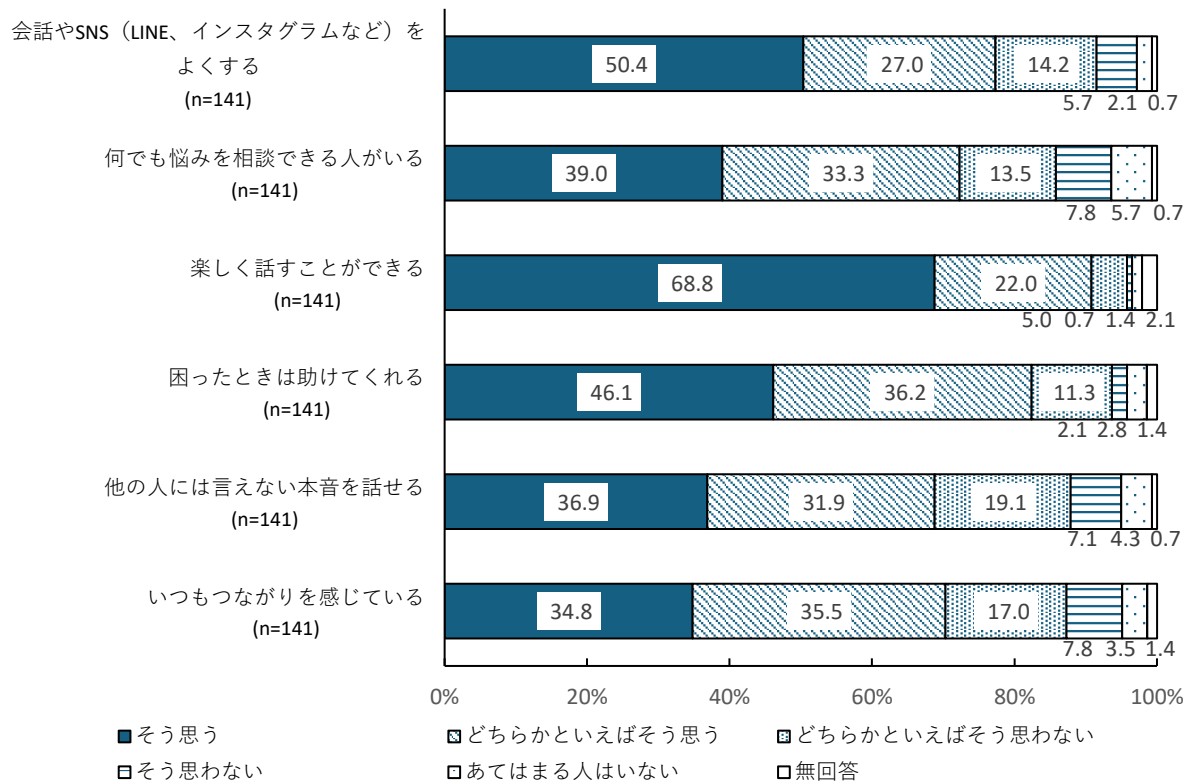
(4) 周囲の人とのかかわりについて

- ① 「家族・親族」と「学校で出会った友人」については、人とのかかわりに関するすべての項目(「会話や SNS をよくする」「何でも悩みを相談できる人がいる」「楽しく話すことができる」「困ったときは助けてくれる」「他の人には言えない本音を話せる」「いつもつながりを感じている」)において、「そう思う」と「どちらかといえばそう思う」の合計が60%を超えていた。【問17, 18】

図表 家族・親族とのかかわり(15～29歳の若者)【単数回答】



図表 学校で出会った友人とのかかわり(15～29歳の若者)【単数回答】

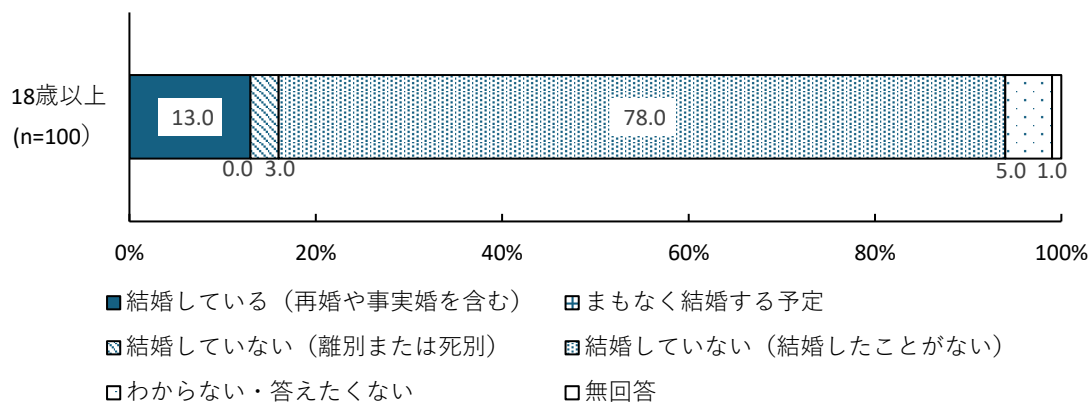


(5)結婚について

- ① 18歳以上の回答者は「結婚していない(結婚したことがない)」という人が 78.0%と最も多く、次いで「結婚している(再婚や事実婚を含む)」が 13.0%であった。

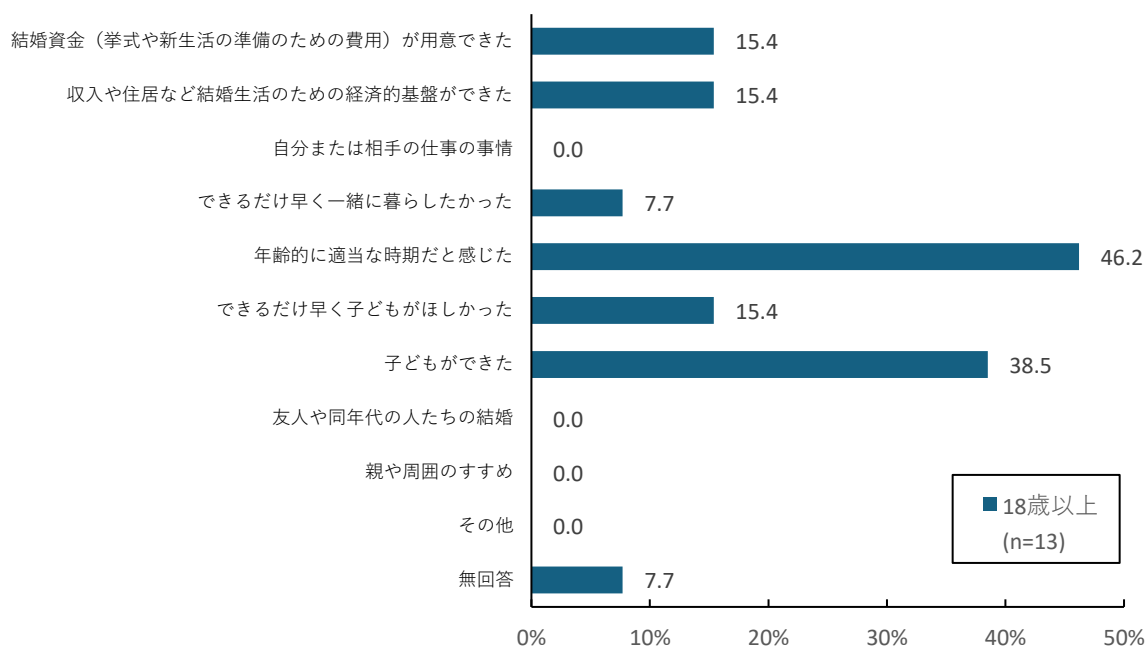
【問22】

図表 現在、結婚しているか(15～29 歳の若者)【単数回答】



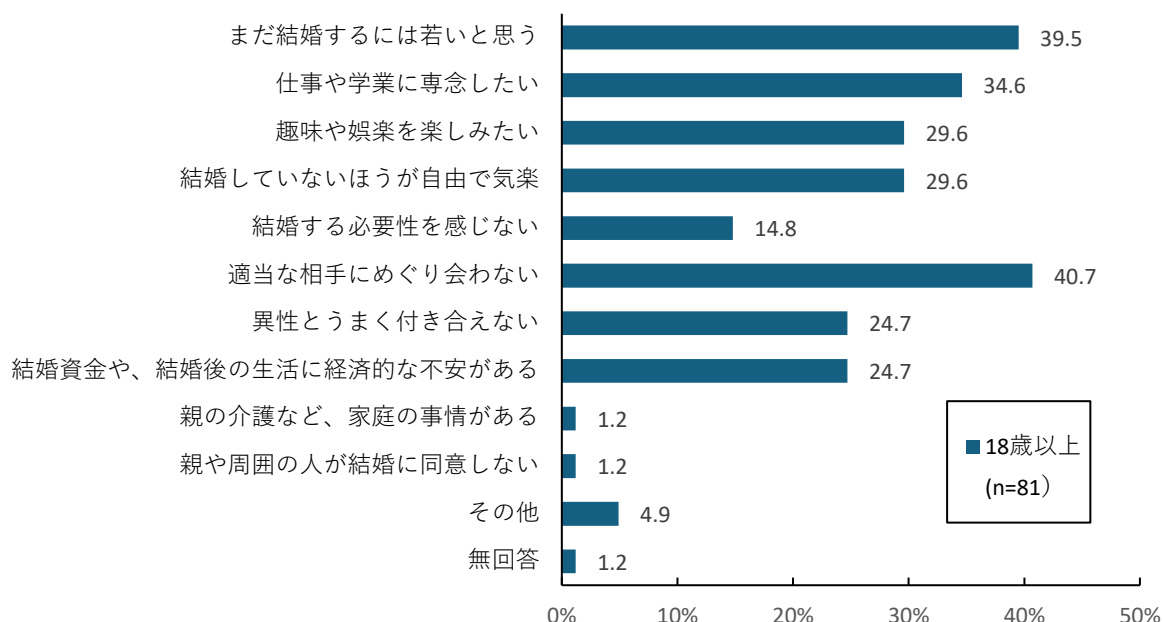
- ② 結婚を決めたときの直接のきっかけについては、「年齢的に適当な時期だと感じた」が 46.2%と最も多く、次いで「子どもができた」が 38.5%となっている。【問23】

図表 結婚を決めた直接のきっかけ(15～29 歳の若者)【複数回答】



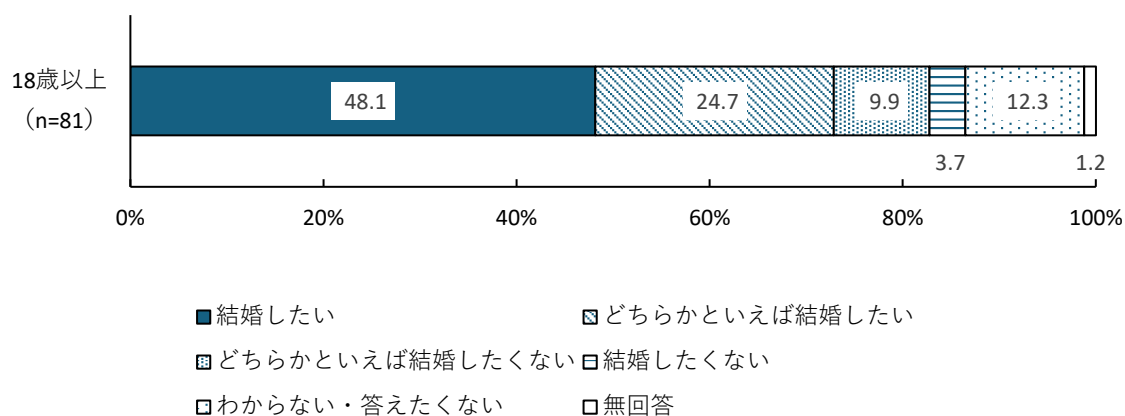
- ③ 未婚または独身でいる理由については、「適当な相手にめぐり会わない」が 40.7%と最も多く、次いで「まだ結婚するには若いと思う」が 39.5%、「仕事や学業に専念したい」が 34.6%と回答が多かった。【問25】

図表 未婚または独身でいる理由(15～29 歳の若者)【複数回答】



- ④ 今後結婚したいかについては、「結婚したい」と「どちらかといえば結婚したい」を合わせた割合が 72.8%、「どちらかといえば結婚したくない」と「結婚したくない」を合わせた割合が 13.6%、「わからない・答えたくない」が 12.3%となっている。【問26】

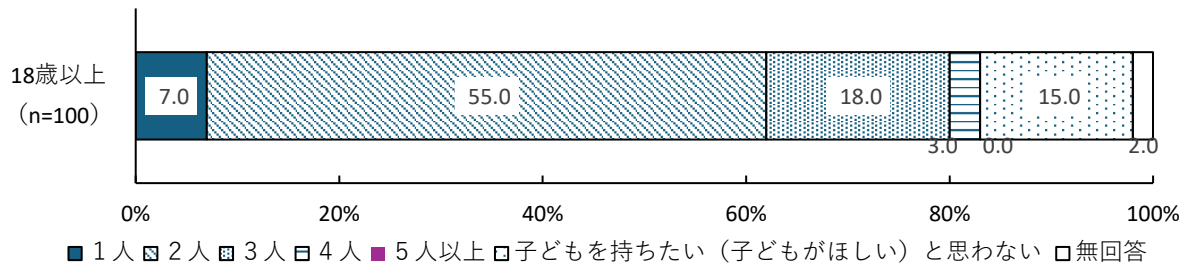
図表 結婚の希望(15～29 歳の若者)【単数回答】



(6)子どもについて

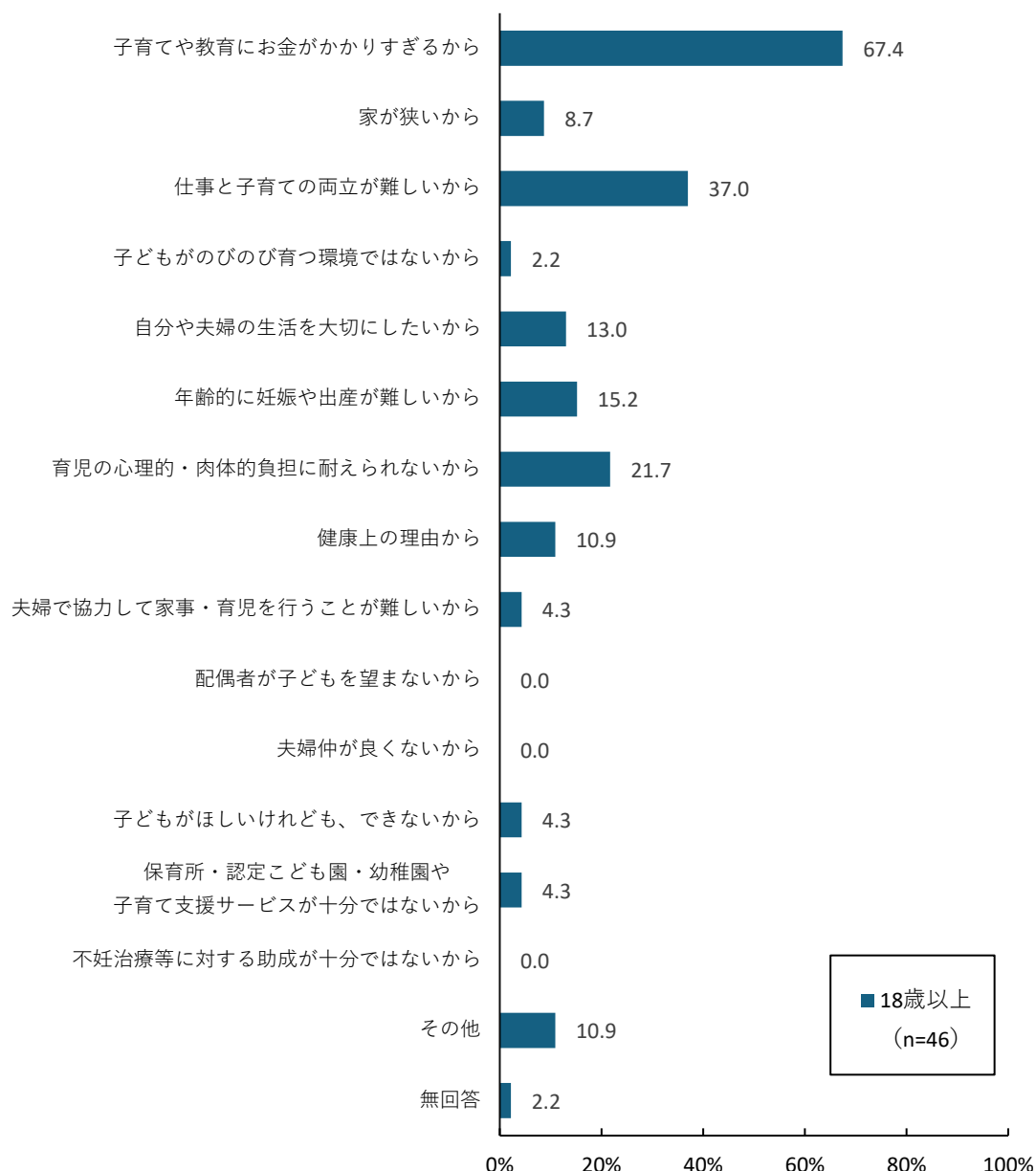
- ① 理想とする(可能なら持ちたいと思う)子どもの数は、「2人」が 55.0%と最も多く、次いで「3人」が 18.0%、「子どもを持ちたい(子どもがほしい)と思わない」が 15.0%と続いている。【問30】

図表 理想とする子どもの数(15～29歳の若者)【単数回答】



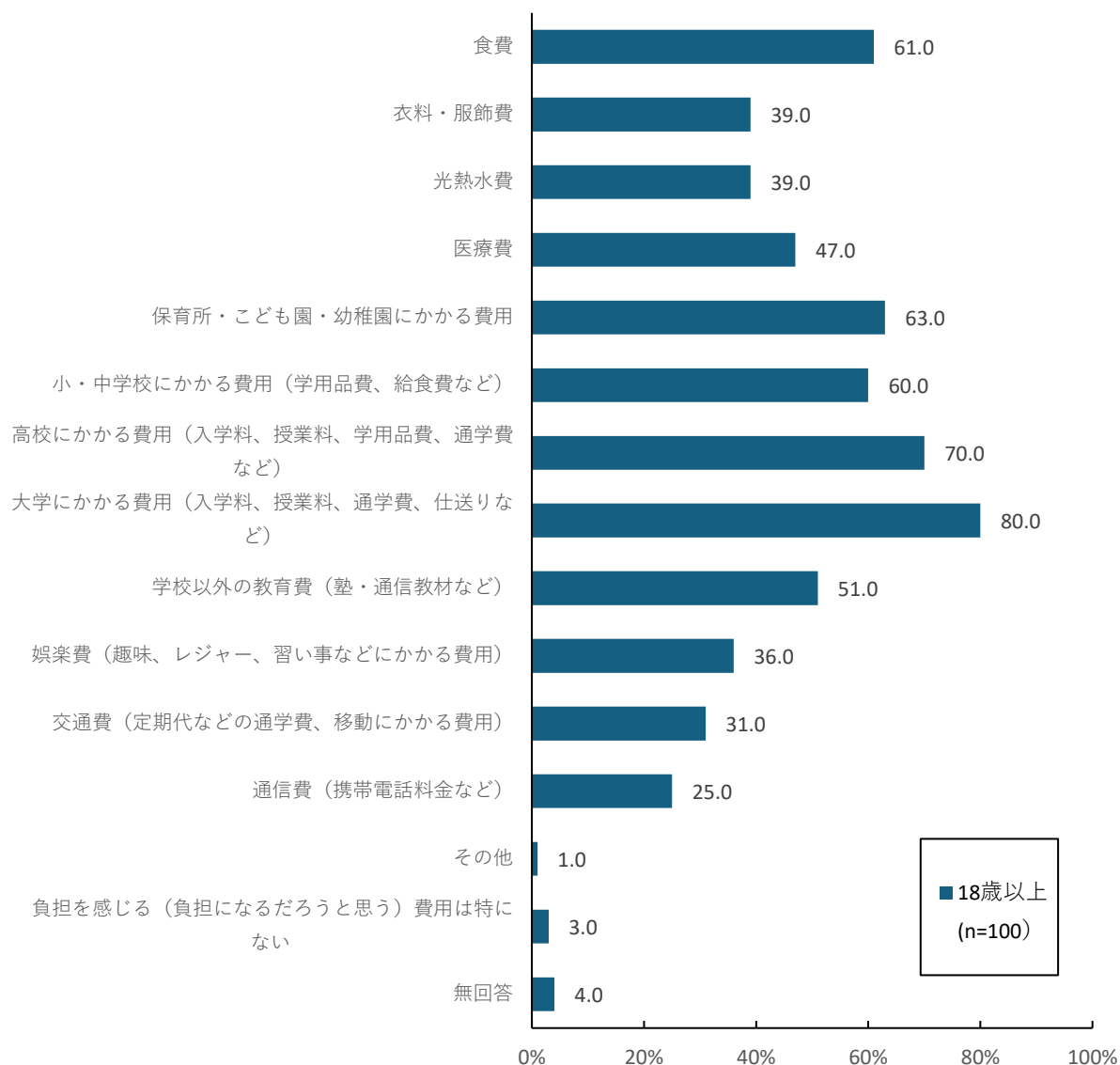
- ② 理想とする数の子どもを持てそうにない、子どもを持つつもりはないと思う理由については、「子育てや教育にお金がかかりすぎるから」が 67.4%と最も多く、次いで「仕事と子育ての両立が難しいから」が 37.0%、「育児の心理的・肉体的負担に耐えられないから」が 21.7%となっている。【問32】

図表 理想とする数の子どもを持てないまたは持つつもりはないと思う理由
(15～29 歳の若者)【複数回答】



- ③ 子育てにかかる費用の中で負担を感じている費用は、「大学にかかる費用」が80.0%と最も多く、次いで「高校にかかる費用」が70.0%、「保育所・認定こども園・幼稚園にかかる費用」が63.0%となっている。【問33】

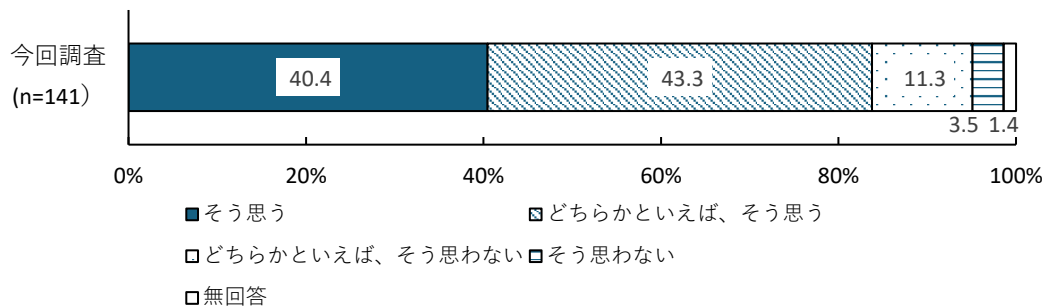
図表 子育てにかかる費用の中で負担を感じている費用
(15～29歳の若者)【複数回答】



(7) 幸福感・自己評価について

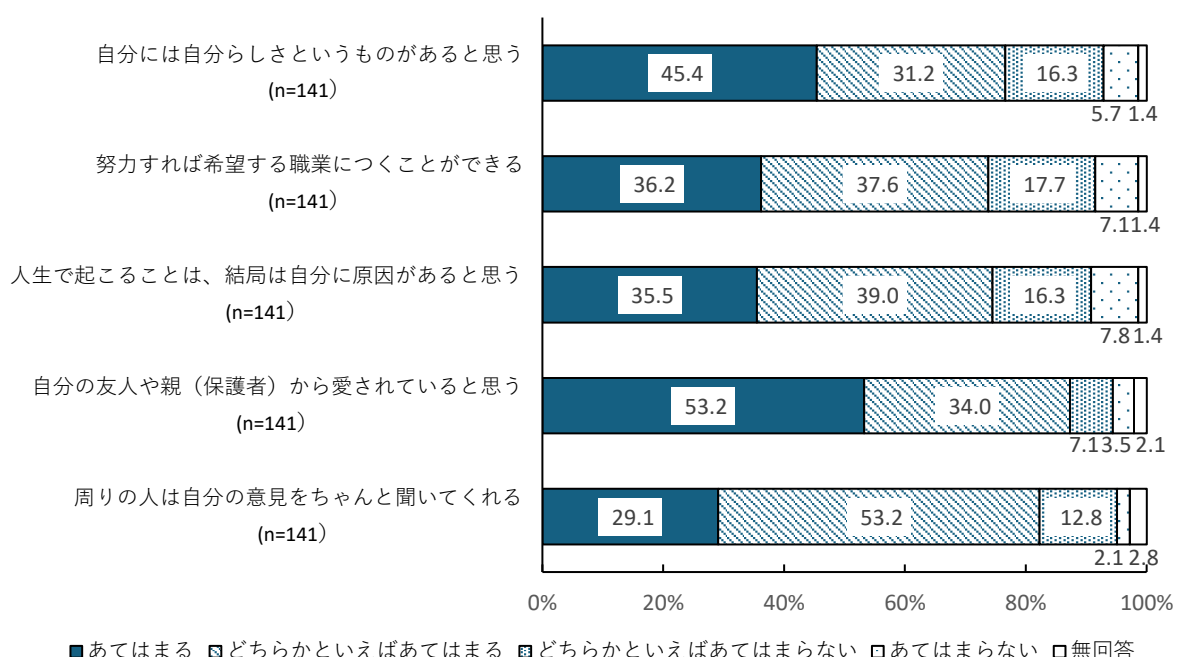
- ① 「自分が幸せだと思うか」については、「そう思う」と「どちらかといえば、そう思う」を合わせた割合が 83.7%、「どちらかといえば、そう思わない」と「そう思わない」を合わせた割合が 14.8%となっている。【問34】

図表 現在の幸福度(15～29歳の若者)【単数回答】



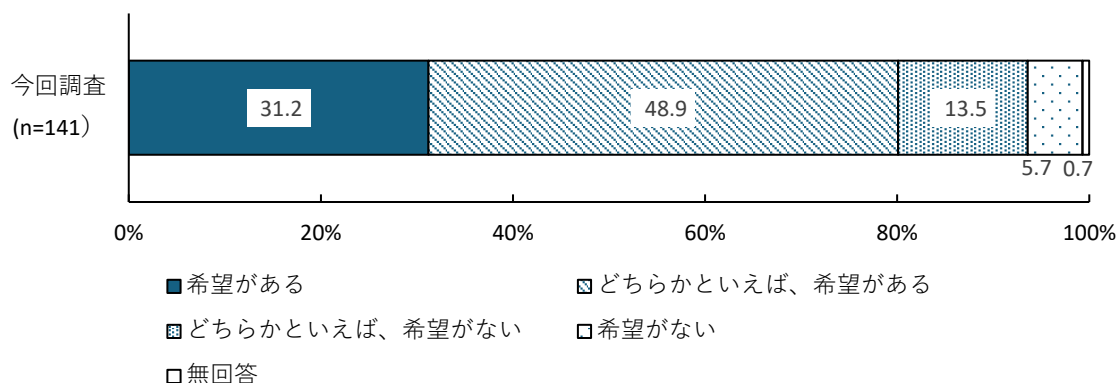
- ② 自分自身については、「自分には自分らしさというものがあると思う」「努力すれば希望する職業につくことができる」「人生で起こることは、結局は自分に原因があると思う」「自分の友人や親(保護者)から愛されていると思う」「周りの人は自分の意見をちゃんと聞いてくれる」と回答した人が多く、「あてはまる」と「どちらかといえば、あてはまる」の合計が 70%を超えている。【問35(1),(5),(7),(11),(16)】

図表 自己評価(15～29歳の若者)【単数回答】



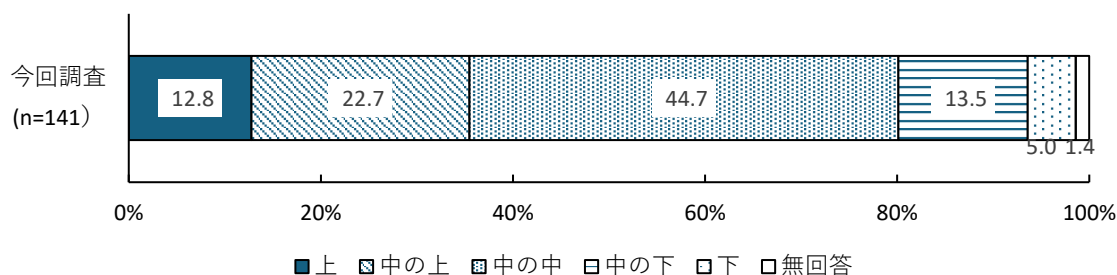
- ③ 自分の将来への希望については、「希望がある」と「どちらかといえば、希望がある」を合わせて 80.1%、「どちらかといえば、希望がない」と「希望がない」を合わせて 19.2%となっている。【問36】

図表 将来の希望(15～29歳の若者)【単数回答】



- ④ 自分の暮らし向き(生活水準)については、中の中以上(中の中、中の上、上)と感じている人が合わせて 80.2%、中の下以下(中の下、下)と感じている人が合わせて 18.5%であった。【問10】

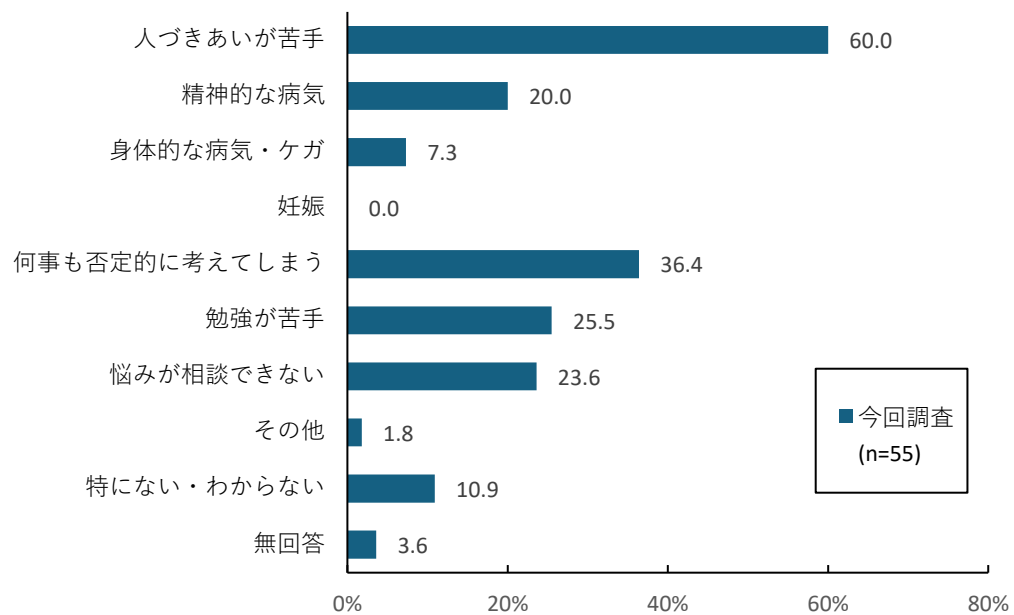
図表 暮らし向き(15～29歳の若者)【単数回答】



(8)悩みごと・困りごとについて

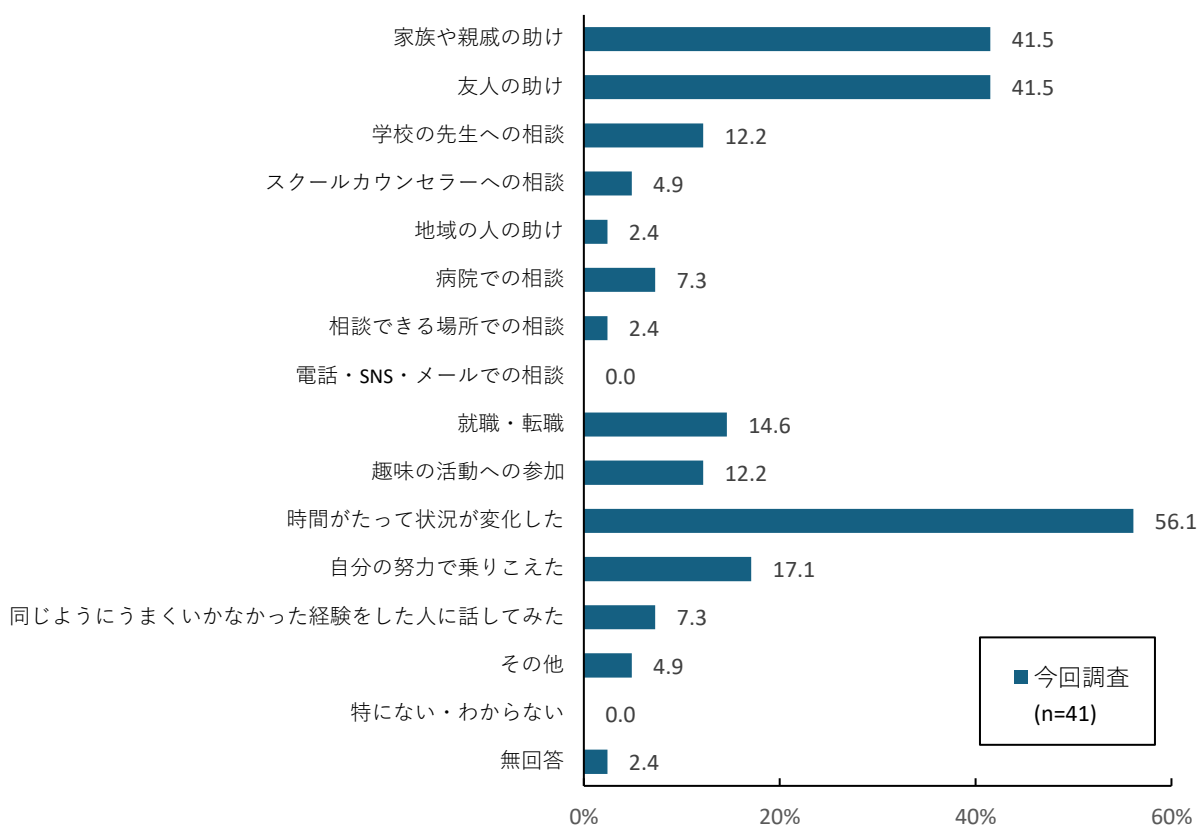
- ① 社会生活や日常生活を円滑に送ることができなかった経験がある人の主な原因は、「人づきあいが苦手」が 60.0%、「何事も否定的に考えてしまう」が 36.4%、「勉強が苦手」が 25.5%となっている。【問43】

図表 社会生活や日常生活を円滑に送ることができなかった自分自身についての原因
(15～29 歳の若者)【複数回答】



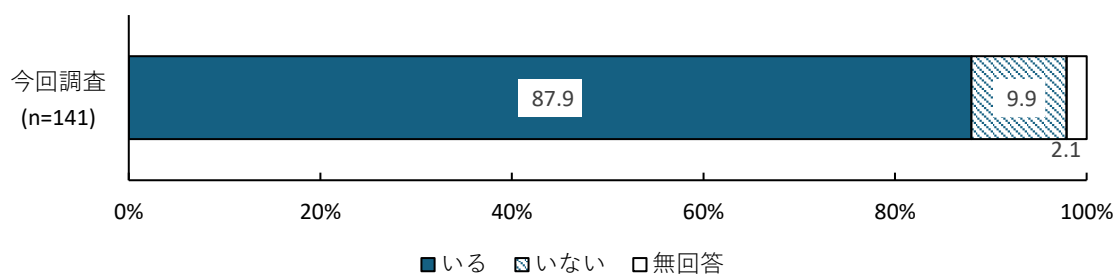
- ② 社会生活や日常生活を円滑に送ることができなかった状態が改善した経験がある人の、改善したきっかけや役立ったことについては、「時間がたって状況が変化した」が56.1%と最も多く、次いで「家族や親戚の助け」と「友人の助け」がそれぞれ41.5%となっている。【問45】

図表 社会生活や日常生活を円滑に送ることができなかった状態が改善したきっかけ
(15～29歳の若者)【複数回答】



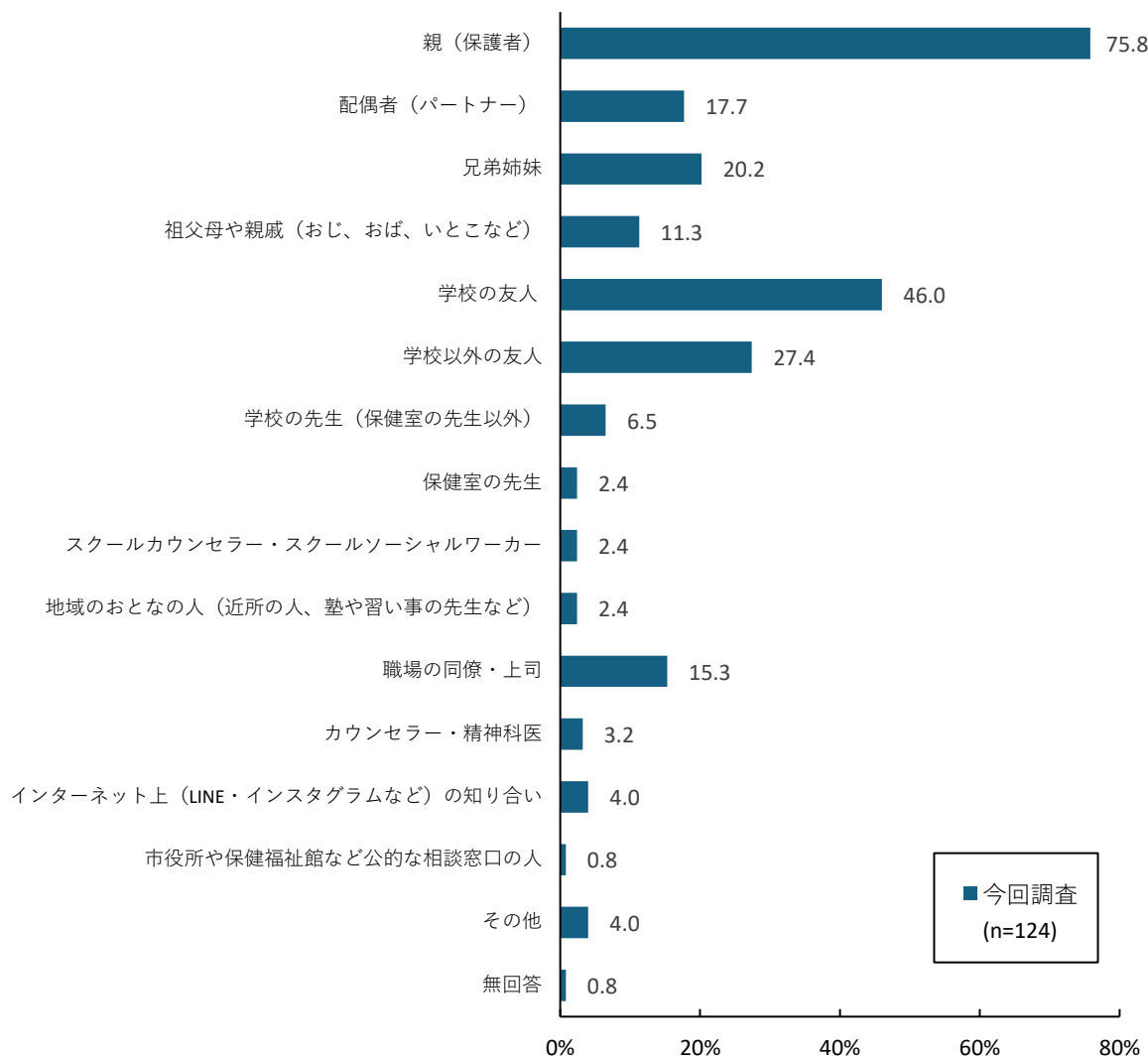
- ③ 困ったときに相談したり、悩みを話せる人については、「いる」が87.9%いる一方、「いない」と回答した人が9.9%いた。【問47】

図表 困った時や悩んだ時の相談相手の有無(15～29歳の若者)【単数回答】



- ④ 困ったときの相談相手については、「親(保護者)」が 75.8%と最も多く、次いで「学校の友人」が 46.0%、「学校以外の友人」が 27.4%となっている。【問48】

図表 困った時や悩んだ時の相談相手(15～29 歳の若者)【複数回答】



(9)こどもの権利について

- ① 「こどもの権利」について知っている割合は、「よく知っている」が 7.1%、「少し知っている」が 29.8%、「聞いたことはある」が 29.8%、「知らない」が 31.9%となっている。【問53】

図表 こどもの権利の認知度(15～29歳の若者)【単数回答】

